

## ユネスコスクール 秋田商業高校の実践

秋田市立秋田商業高校は、総合的な学習の時間に「ビジネス実践」という授業に取り組んでいます。学校全体を会社組織に見立て、商品の開発・販売や地域貢献活動などを行うというものです。ユネスコスクール班はその「ビジネス実践」の校内組織の一つであり、国際理解、国際協力、地球環境問題などの地球規模の問題を取り上げています。

世界の人々や次世代の子どもたちが平和で安心して暮らせる持続可能な社会を目指す教育、それがESD - Education for Sustainable Development (持続発展教育) です。国連は2005年から2014年までの10年間を「ESDの10年」とすることを決議しました。

そのESDを推進する学校として認定されたのがユネスコスクールで、2012年12月現在、日本では550校がユネスコスクールに加盟しています。

秋田商業高校は、2009年2月にユネスコスクールに加盟。



担当の大堤直人先生

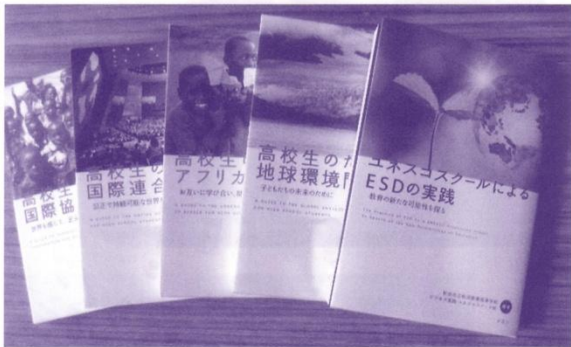
### ユネスコスクールに加盟申請したきっかけは？

秋商がJICA東北などと連携して実施した様々な活動が認められ、2008年に財団法人国際教育交流馬場財団から「馬場賞」をいただきました。その時に、受賞式の会場でユネスコスクール関係者から加盟を勧められたことがきっかけです。

### ユネスコスクール班では、活動実績を5冊の本にまとめ出版なさいました\*)。その目的と効果は？

最初の4冊の高校生向けの本で目指したことは、国際協力(1冊目)のほか、国際連合(2冊目)、アフリカ(3冊目)、地球環境問題(4冊目)について現状を理解し、公正で持続可能な社会、真の世界平和を実現するためには何が必要なのかを考えてもらうことでした。また、人類は一つであり、世界の人々はみな兄弟姉妹であるという理念のもとに世界資源を公平に分かち合えば、世界規模で公正が達成され、そのような平和な社会は実現できることを広く伝えたいという動機もありました。

本は大手書店やオンライン書店を通じて全国に流通しているため、秋田商業高校の知名度、注目度が高まりました。



\*) 1. 高校生のための国際協力入門 2. 高校生のための国際連合入門 3. 高校生のためのアフリカ理解入門 4. 高校生のための地球環境問題入門 5. ユネスコスクールによるESDの実践(アルテ)

### ユネスコの会議では、ユネスコスクールに加盟することのメリットが明らかでないという意見も聞かれますが、この点をどう考えますか？ 秋商の場合はどんなメリットがありますか？

ユネスコスクールのネットワークで推奨されている四つの基本分野(①国連、②人権と民主主義、③異文化理解、④環境問題)について、校内外で堂々と研究・実践ができるというメリットがありました。それぞれの分野に関連した事柄を年度ごとのテーマに設定し、そのテーマに沿って本を編集することも可能になりました。また、ユネスコスクール関係機関からの情報提供、ユネスコスクール同士の交流、ユネスコスクール関連の助成金獲得も可能になるなど、メリットは多いと思います。

### 秋田県内では、秋田商業、明桜高校、大曲南中学校の3校がユネスコスクールに加盟しています。もっと加盟してもらいたいと教育委員会や学校に働きかけていますが、難しいのが現状です。ユネスコスクールを広めるためには何が必要だと思いますか？

ユネスコスクールとESDについての教職員の理解が鍵を握っていると思います。そのためには、関係者による情報発信が重要です。最新刊『ユネスコスクールによるESDの実践』の出版にはそのような意図もありました。この本は、ユネスコスクールやESDにかかわる大学等研究者13名の寄稿を収録し、ESDについて歴史的、内容的に深く掘り下げた本になっています。

来年はESDの10年の最終年に当たり、名古屋市、岡山市で総括の国際会議が開催されます。それを契機にユネスコスクールが更に発展することが期待されます。(菅原 展子)